

湧水から考える雨水の活用

福井大学附属義務教育学校 細川詩月

「弁当忘れても、傘忘れるなし」これは、私
が住む福井県に昔から伝わる言い習わしです。
この言葉からも分かるように福井は雨や雪が
多く、水に大変恵まれています。それが故に
忘れがちな雨水の大切さと活用について、今
回初めて深く考えてみることにしました。

私にとって一番身近な雨水の活用といえは、
湧き水が真っ先に思い浮かびます。というの
も、瓜割清水という湧き水が近くにあるから
です。湧き水は雨水が地下にしみこみ、地下
水となったものが湧き出たもの、つまり元は
雨水なのです。この瓜割清水にはいたるところ
に洗い場があり、今でも野菜や食器の洗浄、
また飲用水など生活用水として使っています。
このように生活に密接に関わっていて、恩恵
を与えてもらっています。しかし、他の一部
の湧き水では、以前より水質が悪化したり、
水が枯れてしまったりなどの問題が起きてい

ます。東京では平成七年度以降の五年間に、七十ヶ所もの湧き水が消失しているようです。その原因として、地下水位の低下と開発行為などによる土地改変があげられています。

その地下水位の低下を食い止めるためには、多くの雨水浸透ますを設置することが一番の近道ではないかと考えます。雨水浸透ますは、地下水を涵養することにより、湧き水の枯渇を効果的に防ぐことが出来るのです。また地盤沈下の防止やヒートアイランド現象の緩和、

都市型水害の軽減などの効果も期待できます。しかし、やはり設置してもらうには、多くの課題があると思います。まずは広く人々に、この雨水浸透ますを認知してもらうことだと思っています。残念ながら私の周りでも、知っている人はほとんどいませんでした。そのため、啓発活動が必要となってくると思います。

そして次に、この設備を設置するにあたり、国が一律に助成金を給付する、このことを制度化するのはどうでしょうか。現在、助成金

5

や補助金の給付を行っているのは、一部の市
 区町村に限られています。それでは雨水浸透
 ますを設置することに、積極的になることは
 できません。そこで、国からの助成があれば、
 設置することかぐつと容易になるのではない
 下しょうか。今は個別住居での使用に適した
 小型かつ安価なものもあるようです。各家庭
 に設置するようになれば、広範囲に分散させ
 て設置することが可能になるため、効果を最
 大限に生かすことができそうです。こうすること

6

下、湧き水の枯渇を少しでも防いでいくこと
 が下きるのではない下しょうか。

日頃あまり気づくことのないままに、私た
 ちは雨水を利用し、恩恵を受けてきました。
 しかし、この関係も今まで通り続いていくと
 は限りません。だからこぎ、下きるだけ自然
 環境を壊さないように大切にし、思いやりを
 返していく。これが、今私たちに求められて
 いること下はない下しょうか。まず、私から
 行動を始めたい下です。